

これでバッチリ釣れる！

へらエサ マニュアル 徹底解説

Vol.6

厳寒期の 浅ダナセット



つれるエサづくり一筋
マルキュー

本社・桶川工場 埼玉県桶川市赤堀2-4 〒363-8509
TEL : (048) 728-0909(代) FAX : (048) 728-3909
<http://www.marukyu.com/>

厳寒期の浅ダナセットとは...

近年の大量の放流の成果もあり、今では確実に釣れるようになった厳寒期。水は温かいほうが比重が軽く上層にくるが、水面は空気によって冷やされ、逆に下がってしまう。そこで、その中間のタナが最も暖かく、ヘラブナはそのタナ、いわゆる浅ダナにじっとすることが多くなった。

近年の釣り方の傾向としては、2つのパターンがあげられる。ひとつは、あまりバラケ性のないバラケで、粒子をタナに浮遊させ、そこに魚を寄せる。そして、その粒子に混じったくわせを食わせる。

もうひとつは、水面近くからペレットをまいたかのようにバラケを降らしてやり、その中に固形のくわせを入れてやり食わせる。この2パターンをマスターすれば、厳寒期も乗り切れるだろう。



Step.1

どんなセッティングが良いの？

サオ = 8 ~ 9尺

ミチイト = 0.6号

セッティングのツボ

軽いウキで細仕掛け、なるべくシンプルにを心掛けましょう。釣るための秘訣として、ハリスの長さが大事になってきます。とにかく上ハリスを極端に短く5cm程度、下ハリスは長く30~60cmくらいを基準にしましょう。

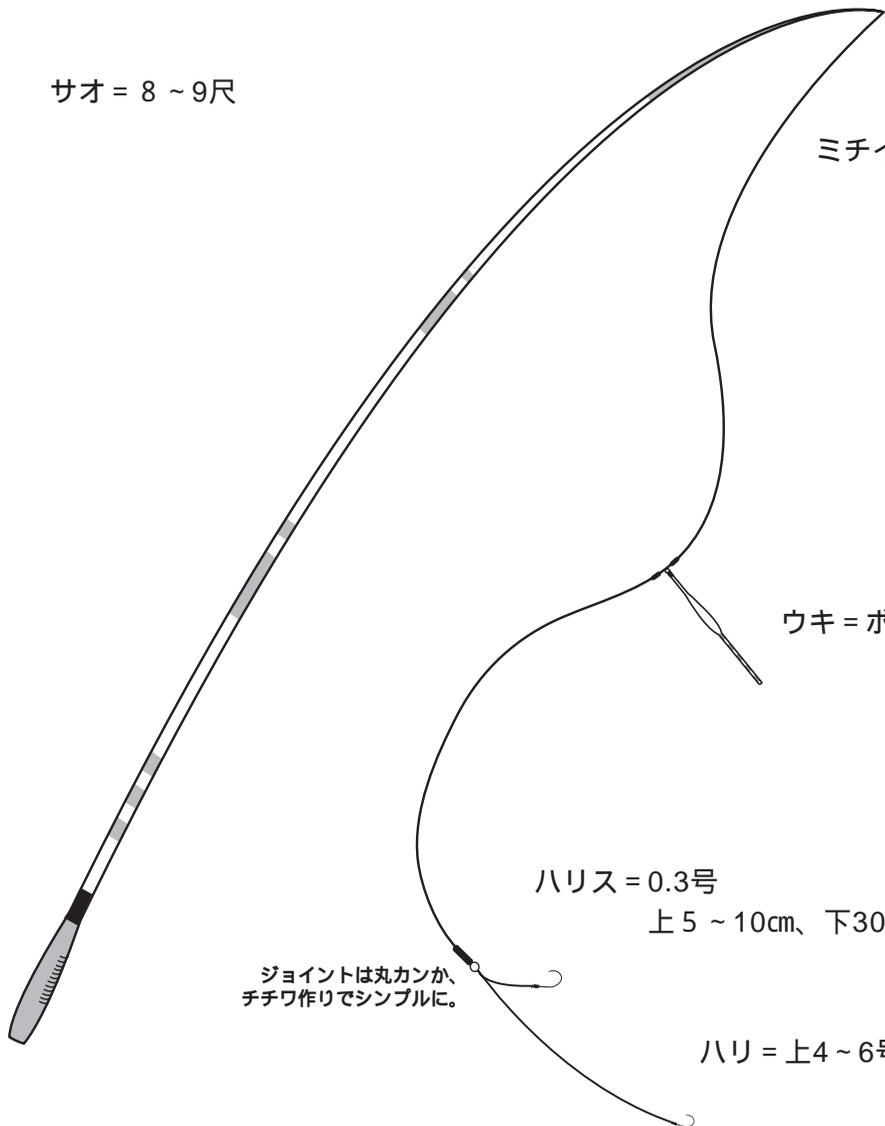
ウキ = ボディサイズ、4~6cmくらいの小さい物

ハリス = 0.3号

上5~10cm、下30~60cm

ジョイントは丸カンか、チチワ作りでシンプルに。

ハリ = 上4~6号、下2~3号



Step.2 釣り方のコツ・ツボは？

基本的な考え方は、動きの悪いヘラブナをそっと寄せ、しかも寄せすぎずに釣ることです。寄せすぎるとくわせに飛びつかなくなり、食いアタリが出なくなるので注意してください。

釣り始めは下ハリスを長めの40～50cmから入り、どんなバラケが良いかを探っていきます。例えば、重いバラケを上から降らせた方が良いのか、軽めのバラケをタナに入れ、バラる範囲を調整して、アタリを出した方が良いのかなどです。

次にどの位のバラケの大きさが最も決めアタリが続くかを見極めていきます。それに合わせて、バラケさせる範囲も探っていきます。

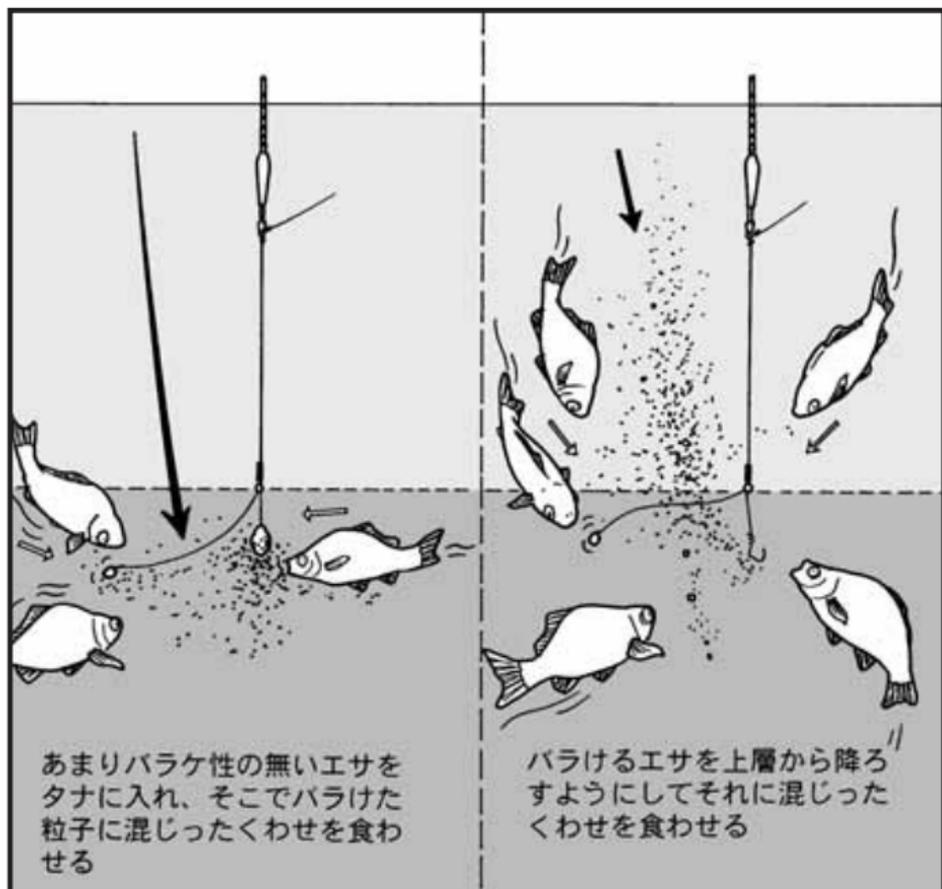
バラケの方向性が掴めてから、カラツンが最も少ないハリスの長さを探し、ベストな段差を見つける。あとは、くわせの大きさを調整しながらテンポ良く打ち続け、釣れるセッティングを見つけましょう。

Step.4 どんなエサを使うの？

重い素材を使う時

魚のウワズリの限界が1m位までの時は、いくらバラケさせてもこれ以上は魚がウワズらないので、かなりバラケるエサを打ちます。しかし、軽いとなかなか沈まないで、寄りが拡散してしまい魚を寄せすぎてしまいます。

そこで、重いバラケで釣るタナにバラケを降らせ、その中にくわせを入れるイメージを描きましょう。つまり、重い素材で粒状にバラケ、バラけた粒がタナに降って来る。そのバラけた粒の中にくわせがあるといった感じです。くわせは、早くタナに入れたいので重めの「特選わらび彩」や「感嘆」が良いでしょう。



軽い素材を使う時

魚のウワズリに限界がなく、水面まで上ってきてしまう場合、バラケを降らせてしまうと、どんどんウワズってしまい、さらにそのバラけた素材を追ってしまうため、食いアタリが減少してしまいます。

こんな時は、軽い素材で粒子の細かいバラケをタナにドブプリ入れてやり、そこでバラケさせます。ここで重い素材だとバラけた粒子が下に行ってしまうのですが、軽い素材であれば、タナで拡散させることができます。すると、その中にくわせを浮遊させ、食わすことが可能です。ですから、このときのくわせは軽い素材の「感嘆」が良いでしょう。

こんなエサを使おう！

【バラケ】

ダンゴの底釣り夏



集魚力と高比重が特徴のエサ。比重とエサ持ち、まとまりを重視。

底バラ



タナでバラけるのでウワズりにくいエサ。芯ヌケ、比重を重要視。

セット専用バラケ



ヌケやすく、サラサラした状態でセット釣りのバラケが簡単にできる。

新B



集魚力に優れ、経時変化が少ない。バラケ性と麩の荒さでボソ感を出す。

スーパーD



他のエサの特性を壊すことなく使えるベースエサ軽さとバラケ性を重視。

冬のバラケ



軽くて超微粒子のエサ。ブレンドの締めを使うと経時変化が少ない。

【くわせ】

感嘆



わらびうどんよりやや軽く、感嘆より重い。ネバリがあり、使いやすい。

感嘆



軽い仕上がり、より自然な落下を生み、渋った状況に効果的。

特選わらび彩



適度なコシとネバリで使いやすく、やや軽めの比重が威力を発揮する。

Step.5

エサ作り

【バラケ】

重いパターン

「ダンゴの底釣り夏」200cc + 「セット専用バラケ」
400cc + 水300cc + 「底バラ」400cc



+



300cc

+

How to make

「ダンゴの底釣り夏」200ccと「セット専用バラケ」400ccを粉の状態混ぜる。そこに水を300cc入れ、20回くらいかき回す。最後に「底バラ」400ccを入れ、さらに20回くらいかき回す。



400cc

軽いパターン

「新B」400cc + 水200cc +
「スーパーD」400cc + 「冬のバラケ」100cc



+



200cc

+



400cc

+

How to make

「新B」400ccに水200ccを入れ、かき回してから3分放置する。「スーパーD」400ccを入れ、20回かき回す。そこに「冬のバラケ」100ccを入れ、30回かき回す。



100cc

Step.6

実釣シミュレーション

打ち始めは...

とりあえずサワリが出るまであまり待たないで打ち返します。このときバラケが大き過ぎるといきなり打ち過ぎになり、アタリが全く出ないことが起きるので大きさに注意しよう。パチンコ玉（直径7mm）くらい大きさに打つのが良いでしょう。

ヘラが寄ったら...

サワリが出てきます（ウキがモヤモヤと動く）。サワリが出たら少し待ち、サワリの後にツンというアタリが出るか出ないかを見ます。

アタらない時は...

バラケの素材が全く違っているといえますので、重いエサを使っていたら軽い素材へ、軽いエサを使っていたら重い素材へ、変更しましょう。

どちらでもアタらない場合は、硬さが合っていないと考えられます。の重いパターンは、手水をつけ、打ち込める限界の柔らかさに持っていき打ってみましょう。軽いパターンなら「冬のバラケ」を100ccずつ足して硬くする。

【くわせ】

「特選わらび彩」分包1袋 + 水110cc

「感嘆」10cc + 水15～20cc

「感嘆」10cc + 水20～25cc



分封1袋

+



110cc



10cc

+



15～20cc



10cc

+



20～25cc

カラツン対策は...

まずどの位置でアタるかを見ます。バラケが付いている時なら、下ハリスを5cm刻みで短くします。アタリが出なくなるギリギリの線を探ると、バラケが付いているうちに当たらなくなるはず。バラケが落ちているのにカラツンなら、まず、くわせが付いているかを確認します。くわせがきちんと付いれば、くわせの大きさが合っていないと考えられますので、大きく付けたり、小さく付けたりしてみましょう。

ウワズってきたら...

バラケを硬めにしましょう。軽麩を少量(60ccくらい)振りかけ10回くらいかき回します。これで逆にアタリがなくなったら、柔らかめで重くしなければだめなので、水を60cc加え、底バラを200cc加えて、20回くらいかき回しましょう。

スレばっかり...

バラケがバラケ過ぎているので、バラケをそのまま20回くらいかき回しましょう。それでもだめなら更に20回。下ハリスが長過ぎることも考えられますので、下バリを5cmずつ短くしてみましょう。



新エサ情報!!

『感嘆』

「感嘆」に比べるとネバリがあり、重いのが特徴なので、わらびウドンに近い感覚で使える。

軽くくわせだと、寄せた魚によるアオリでくわせが舞い上がり釣りにくい場合があるが、重さがあるためハリスが張りやすく明確なアタリが出やすい。

また、素材自体にネバリがあるので、柔らかいくわせが好みの人には「感嘆」よりも使いやすくだろう。

さらに、このことはくわせエサの大きさ調整にも一役買ってくれる。バラケへの反応が強い場合は、大きくて柔らかいくわせが良い。「感嘆」なら相当柔らかく作っても、そのネバリで大きめにつけた時のハリ切れを防いでくれる。

重さと色のアピール力をプラスした「感嘆」。浅ダナだけでなく、深宙や段差の底釣りにも抜群です。



『セット専用バラケ』

現代の冬季浅ダナにおいて、抜くバラケが有効になっている。抜くバラケとは、釣るタナで持つか持たないかの状態のバラケである。そしてそれはバラけた粒子が、釣ろうとするタナにそっと降ってきてはじめて有効なバラケになる。そんなバラケをいとも簡単に作れてしまうのが、今度発売された「セット専用バラケ」だ。

使ってみると、サラサラなタッチのヌケが主体のエサである。しかも適度な比重があり、「底バラ」では重過ぎる、しかもネバが気になるとか、「ダッシュ」では軽過ぎる。こんな時に大活躍するエサである。

標準作りで簡単に作れるので、あとは大きさ調整とエ

最新爆釣テク!!

くわせの重さで釣果も変わる！

セット釣りに限らず、地合によりベストな魚の寄りというのがある。そのベストな寄りをどう演出していくかというのが、バラケ調整であり、その寄りにより、魚のアオリが違い、アオリに合わせた最もベストなくわせの重さがある。

したがって寄りをマックスな状態に保ちながら釣って行くのが良い状況なら重いくわせ、しかも大きめなくわせが良い。この条件を満たすのは自宅で作る「特選わらび彩」が良いだろう。また、重さは必要だが、小さいくわせが良いなら「JP」だ。

また、「感嘆」なら両方の条件でも使えるし、そこそこの寄せで良い場合なども「感嘆」がベスト。寄せは細々、やっとサワるくらいの状態が良いなら「感嘆」と、使い分けで釣果も変わってくる。

また、重めで降らせるバラケなら「特選わらび彩」や「JP」。ウドンを作り忘れた時には「感嘆」。軽めで持たせるバラケなら、「感嘆」の柔らかめで決まることも覚えておいて欲しい。

サ付けの圧力調整だけで、抜くタイミングをいとも簡単に調整できる。

持たせたい時は、練り込むのではなく、持たせるエサである「バラケバインダー」や「浅ダナー本」などの軽くネバリが出やすい素材をブレンドします。また重く持たせたい時は、「ダンゴの底釣り夏」や「グルバラ」をブレンドしましょう。

